
昼のまどろみ

P E T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昼のまどろみ

【コード】

N5906G

【作者名】

PET

【あらすじ】

一日のぼんやりとした生活、感情をたたらと書いてます。

自分は特別だと、思いこむための自信が必要だ

自分だけのものにするために、純粋な力が必要だ

でも、身につけようと思ってるだけじゃだめなんだ

ちゃんとやるべきことはやらなくちゃ

今でも、不器用な自分にはひやひやすることがあるし

いつまでも、うまく主張できやしないんじゃないかって、感じることもある

落ち着けない時間があると、たまらなく不安な自分になってしまっから

納得いくまで、どっしりと座りこみ、考えさせて欲しい

一人になりたくて、顔をしかめたりするけれど、でも寂しくなるのは嫌なんだ

身を引きずるように朝を拒みながら、今まで布団にうずくまっただまだった

頭を空っぽにしてゆっくりと・・・それでも一日はすぐ、そばで僕を招いてた

時の流れから不自然に逃げだして、午後の眼差しさえあしらえず、背負うものばかり焦げ付いて・・・

現実ほ繰り返しじゃないけれど、意地悪さに途方に暮れることもあるくだらないことで疲れたり、慰めにすら飽きてしまったり、

優しさに惑わされながら、僕は結局一人で戦い続けている

そう思うほど陽が沈み、空が落ちくぼみ、

意識するほど陽は赤らみ、虹が溶けていく

その浄化された世界の中、君は突然現れた

君は僕の内側を、あらかじめ知っていて、

何が大事なもののなか、忘れていたものまで取り返してくれて
でも手を伸ばしたら、たちまちに消えてしまうから

だから僕は夢の世界に入りこんでしまいたい

僕の全てを知っていて、僕が何をすべきか教えてくれる

君のいる限り、これから先に何があっても平気だね

無知なことは怖いことじゃない、そう思えるまで時間がかかったよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5906g/>

昼のまどろみ

2011年1月19日23時15分発行